

生命科学部

I 2012 年度認証評価 努力課題課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

II 2015 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

生命科学部は、2014 年度より応用植物科学科が独立し、3 学科体制となった。各学科の優れた取り組みを他学科でも制度化し、学部全体の教育効果の向上を図ると共に学科の連携を強める姿勢が見られる点は評価できる。

教育課程・教育内容については、初年次教育科目の充実や ERP 科目の単位認定などを実行し、学部の理念・目的の達成を図っている。とくに応用植物科学科は、樹木医補や自然再生士補の資格申請に必要な科目を設定し、独自性のある教育課程を提供していることは極めて高く評価できる。教育方法については、シラバス記載内容の相互チェック体制が学部全体で構築されたことは高く評価できる。教育の成果において、成績不振学生に対応する体制を学部全体で整えたことは優れた取り組みである。

大学院教育との連携も含めた教員組織の整備、応用植物科学科の圃場の整備などの課題については解決に向けて引き続き取り組まれない。

応用植物科学科においては、開設 2 年目に当たり、学科の理念・目的の周知を促進するため、たとえばオープンキャンパスでより多くの来訪者を迎えられるよう、さらなる広報活動に努めるとともに、高等学校訪問の検討など、より一層の取り組みを期待する。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

生命科学部は 2014 年度より 3 学科体制となり、学科間でそれぞれの優れた制度等を取り入れ連携を深めながら、学部として教育体制・手法の充実・向上を図っている。学部・学科の体制の周知を図り、植物医科学センター活動など社会貢献にも取り組んでいる。大学院教育も含めた教員組織では、教養教育を担当する教員を 2017 年度に 2 名、2018 年度に 1 名、さらに、理工学研究科生命機能学専攻の大学院教育に携わる教員 1 名を確保する見通しとなり、教育体制の強化を図る。一方で、学生、教員の教育研究のスペース確保や圃場の整備、さらに学生指導での質の保証、授業内不正行為への対応などの課題に取り組む必要がある。教育課程・教育内容については、初年次教育の充実 や ERP 科目の単位認定などに取り組んだ結果、のべ人数で 73 名の学生が ERP を受講するなど学生の意識向上が認められた。また、兼任講師との意見交換会を未実施学科が取入れるなど、教育・研究両面で評価結果への対応を行っている。

III 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教員像および教員組織の編制方針】（2011 年度自己点検・評価報告書より）

理念・目的で示される「生命」、「環境」、「物質」の領域に応じて組織された 2 学科、2 専修（生命機能学科生命機能学専修、同学科植物医科学専修、および環境応用化学科）での「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、および「アドミッション・ポリシー」に立脚した教育研究を多様な形で学生に指導、支援できるように努める教員を求める。従って、教員組織の編制に関わる方針は、生命機能学専修では、「生体を構成するタンパク質・ゲノム・細胞から、生命をそれらの有機体として捉え、かつ、これらの学問領域での先進的教育と研究を実践できる教員」を、植物医科学専修では「植物医科学分野で最先端の知識・技量と豊富な経験を有し、資格取得のサポートもできるような実践的教育・研究を遂行できる教員」を求める。環境応用化学科では、「21 世紀型先端化学を修めることができるような、グリーンケミストリーを基礎理念として、有機化学、無機化学、物理化学、環境化学、化学工学各分野をバランスよく習得していることを要件とし、更に、境界領域までカバーするような教員」を求める。このような教員像に基づき教員組織の編制がなされている。

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

・生命科学部教員審査内規

- ・生命科学部教員資格に関する内規
- ・生命科学部教授、准教授および専任講師資格に関するガイドライン

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・学部執行部は学部長、教授会主任、教授会副主任1名ずつよりなる。
- ・教学関係を含め重要な案件は、各学科主任および学部担当事務主任を含めた執行部会議での議を経た後に、教授会上程して改めて議論し、決議する体制をとっている。
- ・学科の独自の問題に関しては、各学科の責任で検討が行われ、原則として全教員が参加する教室会議により意志決定がなされる。
- ・教養教育を担う組織として小金井リベラルアーツセンターがあり、学部組織と連携して教養教育の責務を担っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・生命科学部教授会規程
- ・生命科学部執行部会議・教授会議事録

③教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

教員組織は、学部教員が大学院の主要科目を担当し研究指導を行う体制であり、連携が取れている。学部時代の研究テーマを大学院でも続けて行うことにより、高度な研究を行って学会発表するなど成果を挙げている。また、担当教員が許可することで学部4年生が大学院科目を「先取り」受講することが可能であり、継続性ある教育体制となっている。各学科においてそれぞれ教員が大学院業務を分担し、教員や大学院修了生・上級生による大学院進学に関する説明会の実施など大学院教育との連携を推進している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・大学院 理工学・工学研究科要項
- ・生命機能学専攻・応用化学専攻入試結果

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

生命機能学科の3分野別教員数は、2015年現在、ゲノム分野が2名、蛋白質分野が3名、細胞分野が4名の配置である。今後の大学院枠や定年交代の人事に際しては、分野別の配置のバランスを保つために配慮していく予定である。環境応用化学科では、3つのコースすなわち、物質創製化学コース、グリーンケミストリコースおよび環境化学工学コースに分かれ、それぞれ、物理化学、有機化学、無機化学、環境化学および化学工学の5分野に対応する2名ずつの教員が担当している。応用植物科学科では、学科設置準備委員会の議論において、植物医科学を支える分野を考慮し、各種の微生物病、害虫、生理病、社会科学の各分野の専門家からなる教員体制とした。しかし、学科の教員のうち2名は任期付教員の立場である。将来にわたってさらに充実した専門教育を提供するには、今後の教員定員枠の拡充などが望まれる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学生命科学部設置の趣旨等を記載した書類
- ・生命科学部教員一覧
- ・法政大学ホームページ
- ・学部・研究科・各学科のホームページ・パンフレット
- ・2015年度専任教員数一覧

2015年度専任教員数一覧

(2015年5月1日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
生命機能	8	1	0	0	9	8	5
環境応用化学	9	2	0	0	11	8	4
応用植物科学	8	0	1	1	10	8	4
学部計	25	3	1	1	30	24	13

専任教員1人あたりの学生数(2015年5月1日現在): 29.9人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】(～200字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

生命機能学科および環境応用化学科では2014年までの数年間で教員の定年による交代があり、その後任人事には年齢構成を十分配慮した人事が行われ、十分に改善された。引き続き、後任人事採用に当たっても、年齢に偏らないように配慮していく予定である。応用植物科学科では、学科設置準備委員会で2014～2017年度までの教員採用を決定しており、完成年度までに適切な配分の年齢構成となるように計画されている。

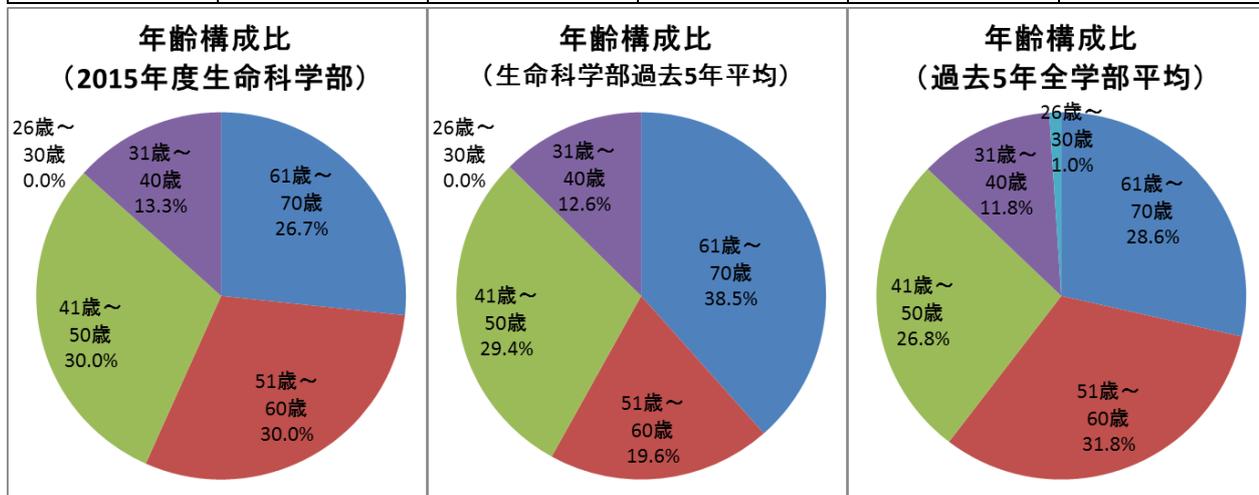
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・生命科学部教員一覧
- ・生命科学部応用植物科学科設置の趣旨等を記載した書類

年齢構成一覧

(2015年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2015	0人	4人	9人	9人	8人
	0.0%	13.3%	30.0%	30.0%	26.7%



1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

① 各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・生命科学部教員審査内規
- ・生命科学部教員資格に関する内規
- ・生命科学部教授、准教授および専任講師資格に関するガイドライン

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】 ※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等(非公開)を添付することでも可。

- ・教員の採用(募集・任免)および昇格に関する審査は、「生命科学部教員審査内規」に従って、採用は原則公募によるものとする。
- ・候補者については推薦委員会(5名以上の専任教員で構成)および人事委員会(各学科2名ずつの専任教員で構成され、当該学科以外の教員が委員長となる)を通じて二段階の精査を行う。
- ・最終的に教授会で投票による議決(当該職位以上の教員が投票権をもつ)を行っている。

1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①学部(学科)内のFD活動は適切に行なわれていますか。

A B C

【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。

- ・全学の「FD推進センター」で実施される授業改善アンケートに加え、各学科独自に授業アンケートを実施。
- ・2011年度より授業公開を実施。法政大学の全教職員に対して公開しており、教員が相互参観を行うとともに、特任教育技術員、教育技術嘱託など技術系職員が参観。
- ・FDアンケート等の結果を各教員にフィードバックし教員の自主的な授業の質の改善に活用するシステムを整備。

・シラバスチェックシステムを各学科で整備。

【2015年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・授業公開：2015年度は、春学期（6月8日～7月4日）と秋学期（11月9日～12月5日）に授業公開・参観を行った。春学期は公開74科目・参観29科目、秋学期は公開82科目・参観19科目であった。
- ・シラバスチェック：年度末にかけて、各学科で開催した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各学科授業アンケート
- ・各学科教室会議（教員会議）議事録

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・教養教育を担当する教員を2017年度に2名、2018年度に1名、さらに、理工学研究科生命機能学専攻の大学院教育に携わる教員1名を確保する見通しである。	1.2①、1.1③
・兼任講師担当授業については、2014年度までは環境応用化学科のみが授業公開していたが、2015年度から生命機能学科と応用植物科学科の授業も担当教員の同意の得られた科目では公開することとなった。	1.4①

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・特任教育技術員、教育技術嘱託など技術系職員の待遇改善に取り組む。
- ・在外・国内研究員制度の活用をはかる。今後、学部・学科において研究員として派遣できる体制を整え、教員の資質・モチベーションの向上を図る必要がある。

【この基準の大学評価】

生命科学部の教員の採用・昇格は内規およびガイドラインに基づき適切に行われている。教育を実施する上での学部内の役割体制や責任の所在は明確である。大学院教育は学部教員と連携しており、学部4年生の大学院授業の先取り受講や学会発表への積極的取り組みなど評価できる。教養教育に関する責任体制も小金井リベラルアーツセンターへの関与がなされている。

教員組織は各専門分野のバランスを考慮して配置されており、年齢構成も特定の年代に偏らぬよう、採用時に配慮されている。

教員の採用・任免・昇格に関わる各種規定は、内規およびガイドラインの形で整備されており、適切に運用されている。

FD活動については、全学的な授業改善アンケートに加えて、各学科独自の授業アンケートを実施し、各授業の改善に役立っている点は評価できる。また授業公開や授業参観を積極的に実施し、2015年度からは全学科で、同意のとれた兼任講師にも展開している点は優れた取り組みである。

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

理念として掲げた「柔軟で総合的視点を備えた人材」と「実践的研究・技術者」育成を達成できるような教育課程の編成とその遂行を大方針とする。前者については、「英語科目、教養科目、理系教養科目の単位取得」を卒業要件に含め、専門科目にも学部共通科目および学科共通科目を設け、総合的科学研究者の見地も備えていることを要件とする。後者については、1年次より専門実験・実習科目を配して、早期より専門性を高めるよう配慮している。更に、各学科では、学生の興味に合わせた専門性をより高めるべく3つの履修コースを設定している。

各学科の詳細な教育課程の編成とその実施の方針は以下の通りである。

生命科学部生命機能学科

ゲノム・タンパク質・細胞を中心として、生命現象を分子から理解し、その統括としての生命体の理解が可能なような専門科目を配置する。また、三履修コースとして、「ゲノム機能」、「蛋白質機能」、「細胞機能」を設け、学生の興味に合わせて専門性を持たせるが、全体としては次のような点に配慮する。

- ・初年次から実験・演習を実行する科目を設定する。
- ・二年次からは、研究室配属による課題研究・演習を必修として、理論・知識と実践的技術の習得によると相乗的効果を推進する。
- ・学部内の教養科目、学科横断的な専門科目の複数の習得を推奨する。
- ・学科独自にもFDの結果をフィードバックさせ、履修指導、講義改善を図り、よりきめ細かく、柔軟性ある教育を遂行する。

生命科学部環境応用化学科

化学に関する基礎科目を習得したのち、三履修コースを設け、より専門度を高めるようカリキュラムを配する。コースは、「物質創製化学」、「グリーンケミストリー」、「環境化学工学」とし、卒業後選択する職業への指針を与えるよう配慮するが、全体にわたって以下の点にも配慮する。

- ・全学年に実験科目を配し、化学エンジニアとしての技術の基礎を身に付けさせる。
- ・初年次の「応用化学基礎」では、ケア教育およびキャリア教育に配慮し、3年次には応用化学セミナーを設けて、研究室配属への準備を行う。4年次には、卒業研究を課し、社会人、大学院進学への準備を徹底するよう、少人数教育に努める。
- ・公的資格取得のための教育にも配慮する。

生命科学部応用植物科学科

植物、微生物と昆虫に関する、分子・細胞生物学からマクロな生態学まで配置し、併せて食糧、環境、社会経済問題まで広範に、総合的な知識を修得可能なメニューを配する。特に、植物保護に関わる技術や資格取得のための知識修得の機会を設ける。三履修コースとして、「植物クリニカル」、「グリーンテクノロジー」、「グリーンマネジメント」を設定する。以下の点に配慮する。

- ・実験・実習を初年次から開始して、基礎訓練を行い、その後段階的に高度な診断・防除技術を修得するような実践的で、体系的な教育プログラムを設定する。
- ・公的資格（技術士補、樹木医補、自然再生士補）の取得プログラムを配置するとともに、植物関連の食糧・環境・バイオ関連の企業・公的機関へのインターンシップを行う。
- ・関連する法令や制度、国際動向、関連ビジネスについての知識修得の場を設ける。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。 A B C

(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。「カリキュラム・ポリシー」に基づき、各学科では3つの履修コースを設定し、順次性を含め体系的な教育課程を明示している。

生命機能学科：ゲノム機能コース、蛋白質機能コース、細胞機能コース

環境応用化学科：物質創製化学コース、グリーンケミストリーコース、環境化学工学コース

応用植物科学科：植物クリニカルコース、グリーンテクノロジーコース、グリーンマネジメントコース

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学ホームページ（カリキュラム・ポリシー）
- ・学部・研究科・各学科のホームページ・パンフレット
- ・生命科学部履修の手引き

②幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。 A B C

(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

2012年度には、小金井リベラルアーツセンターが設置され、生命科学部と理工学部的一般教育科目の実施に際して調整等をおこなっている。各学科とも初年次教育としての科目を指定し、自立性やプレゼンテーション能力を涵養することとしている。生命機能学科では、「2年次から研究室に配属できる」という特色を生かして、早い時期からラボ内での社会コミュニケーション力を身に着ける機会を与えることより、社会人として相応しい人材育成を行なっている。環境応用化学科では、1年次春学期の必修科目「応用化学基礎」を通して教員と学生が密接なつながりをもつことができ、人間形成に

役立っている。さらにチューター制度により先輩学生とコミュニケーションを持つことにより、教科内容のみでなく、人間的な学びを行う。さらに、大学院修了後、企業で活躍する先輩学生との情報交換の機会を定期的に設け、人的ネットワークの構築を行なっている。応用植物科学科では、実験実習科目やインターンシップ（2年次：必修科目）、その他の科目の中で対話型・学生参加型・問題解決型の授業を実施しており、総合的な判断力や豊かな人間性を養うことに努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学生命科学部設置の趣旨等を記載した書類
- ・各学科教室会議（教員会議）議事録
- ・応用植物科学科インターンシップ先一覧

2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

A B C

（～400字程度まで）※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

学生が問題意識をもち、自ら学ぶ自立性を涵養するために、1年次からの実験・演習科目を導入している。生命機能学科では、「生物化学」「分子生物学」「細胞生物学」「生物物理学」分野の専任教員担当科目において、講義内容を分担化するなど、体系的カリキュラムを設定している。希望する学生は3つの分野、ゲノム、蛋白質、細胞の研究室に2年次から配属できる。各研究室では、生命科学研究に従事し、4年次まで継続することができる。環境応用化学科では、学びのモチベーションを上げるために生命科学部賞を設立して、公的資格試験（採用試験）合格者等を毎年表彰している。実験および演習を重視し、自律的に学ぶ内容を十分に取り入れている。応用植物科学科では、樹木医補や自然再生士補、技術士補などの各種資格の取得に向けた科目を実施するとともに、公務員受験対策コースの設定やインターンシップを必須科目とするなど、社会が求める人材の育成に努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・生命科学部履修の手引き
- ・生命機能学科教室会議議事録

②初年次教育、キャリア教育は適切に提供されていますか。

A B C

（～400字程度まで）※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

初年次教育として、入学時にプレースメントテストおよびTOEIC-IPテストを実施し、クラス分けを行っている。生命機能学科では、1年次のガイダンス時に、「生命機能学実験の手引き」を必修実験演習科目のテキストとして配布している。このテキストは、実験の技術的な内容に加えて生命科学の学習法、英語学習法、作文技術なども掲載し、その内容についての講義も行っている。キャリア教育としては、3年生を対象に「進学説明会」と「就活説明会」を開催している。環境応用化学科では、1年次の必修科目「応用化学基礎」「応用化学入門」を通して導入教育を行っている。さらに「応用化学基礎」では、3回の講義で専門家によるキャリア教育を実施し、社会的・職業的自立に向けた学ぶ意欲の育成を行っている。応用植物科学科では、初年次にレポートの作り方や資料の収集方法など、基本的な作業について教えている。またキャリア教育の一環として、技術士試験対策や、樹木医補、自然再生士補に向けた科目を初年次から受講するように指導している他、「植物医科学ビジネス論」（2年生）、「植物医科学法論」、「知的財産総論」（3年生）などの実践的科目を配置している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・生命科学部履修の手引き
- ・各学科教室会議（教員会議）議事録
- ・生命機能学科 生命機能学実験の手引き
- ・生命機能学科基礎実験 I/II・基礎演習 I/II シラバスと予定表
- ・応用植物科学科アンケート

③学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

A B C

（～400字程度まで）※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

夏季および春季のSAプログラムを実施するとともに、定期的にTOEIC-IPテストを実施して、そのスコアを教室会議で評価・議論している。また、2014年度よりERP科目を卒業単位として認定（12単位を上限）した。ERPについてガイダンス等で周知を図り参加を強く推奨している。また、SGU採択に伴い、英語による専門科目の設置についても検討を行っている。特筆すべき実践として、生命機能学科では、1年次（秋学期）～2年次（春学期）には基礎科学英語を、3年次（秋学期）～4年次には科学英語を必修科目として少人数クラスで実施している。また、来日した海外の研究者によるセミナー

を開催し、学部全体に公開している。環境応用化学科では、全教員が英語を取り入れた講義に取り組んでおり、教材・小テストを英語化するなど、国際性を養うための教育に取り組んでいる。応用植物科学科ではSA、ERPなどの英語教育を積極的に推奨し、学生チームが2年連続で学外の英語プレゼン大会に本学代表で選出されている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・生命科学部 ERP、SA の実績、アンケート調査
- ・生命機能学科国内外研究者によるセミナー件数

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・「生命機能学実験の手引き」の学習法に関する内容を刷新（生命機能学科）。	2.2①
・環境応用化学科の前身である物質化学科卒業生の大学教員を講師として「環境応用化学科キャリア講座」を開催し、本学卒業生の視点から大学生活全般や勉強・大学院での研究活動についての体験談や後輩へのアドバイスなどに関して講演を行った。（環境応用化学科）	2.2②
・2015年度より2・3年生向け就職ガイダンスを実施し、身につけておくべき能力や就職活動に向けての心構えについて説明した（応用植物科学科）。	2.2②
・インターンシップ受け入れ先を社会ニーズに合わせ新規開拓。受け入れ先数2割増加、食品製造業、種苗会社、観賞植物生産・販売業者、酒造会社等が開拓された（応用植物科学科）。	2.1②

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・大学院修了生による大学院修了後のキャリア説明会に兼任講師懇談会で提言のあったパネルディスカッション方式を取り入れる（生命機能学科）。
- ・社会で活躍する本学科卒業生を講師とした「環境応用化学科キャリア講座」を定期的に開催し、キャリア教育をより充実させる（環境応用化学科）。
- ・就職やインターンシップ志望者にとって必要となる、社会的なマナー、メンタルケア等に関する講座を年1度行ってきたが、それを維持し、内容をさらに充実したものとなる様検討する。（環境応用化学科）。
- ・キャリア教育については、資格取得の一層の奨励と、インターンシップ受け入れ先に食品企業・農業生産現場等をさらに広げる（応用植物科学科）。
- ・公務員試験等合格者数を増加させるための、合格体験者の先輩による講演など指導強化を行う（応用植物科学科）。

【この基準の大学評価】

生命科学部のカリキュラムはカリキュラム・ポリシーに基づき各学科で3つの履修コースを設定し、順次性と体系性が確保され、カリキュラムマップとして履修の手引きに明確に示されている。また学部のカリキュラムは、教養系科目、専門教育科目、自由選択科目で構成され、人として豊かな人生を送るために必要な幅広い教養と国際性を身につけるよう工夫されている。

また自ら学ぶ自立性を涵養するため実験・実習・演習科目を重視し、生命機能学科では2年次から研究室配属を行ったり、環境応用化学科では企業で活躍する卒業生との情報交換の場を設けたり、応用植物科学科ではインターンシップ科目を必修にするなど、初年次教育やキャリア教育に関する各学科の特徴的な取り組みは高く評価できる。

国際性の涵養については、学部のSAプログラムやERP科目、TOEIC-IPテストの活用を進め、一部の専門科目へも英語教育を積極的に取り入れている点は評価できる。

生命機能学科、応用植物科学科では卒業論文発表で優秀者を表彰する制度を導入し、環境応用化学科では資格取得の奨励等のため生命科学部奨励賞を設けている点も評価できる。

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

- 3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。 >>ここは学科ごと箇条書きでよいように思う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時のガイダンス等において、幅広い科学の素養を身につけるための理系教養科目など、履修におけるポイントとなる点を各学科丁寧に指導している。 ・生命機能学科では、教務担当教員を中心に、理系教養科目（化学、物理学、数学等）の積極的な履修を指導している。また、専門科目についてもカリキュラム・ポリシーに基づいた3つの履修コースに対する履修モデルを掲示している。 ・環境応用化学科では、理系教養科目（化学、物理学、数学）の積極的な履修を指導している。また、「応用化学基礎」の講義において1年生に各自の履修登録予定表を教員に提出させて、履修指導に関するきめ細かな指導をしている。さらに、留年生には4月に別途ガイダンスを行い、きめ細かい履修指導を実施している。 ・応用植物科学科では、各学年に対して2名ずつの専任教員を「学年担当」として配置するとともに、チューター制度を活用することによってよりきめ細かい履修指導を実施している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科ガイダンス資料 ・生命科学部履修の手引き ・環境応用科学科履修登録予定表 ・応用植物科学科役割分担表 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>生命科学部では、全専任教員がオフィスアワーを設定して学生の個別指導に当たるとともに、各学科に学生問題担当教員をおき、成績不振学生等の調査・対応を主導している。生命機能学科では、1～3年生担当教員および基礎実験演習担当教員を設定し、1年次から基礎実験、演習科目等実践的教育を実施している。また、適時統一小テストを行い、自主学習を喚起させている。研究室配属学生に対しては担当教員が高密度の専門教育を提供している。環境応用化学科では、「応用化学基礎」の時間やオフィスアワーを用いて、きめ細かに学習指導を行っている。また、特任教育技術員は、分担して主要講義科目、実験科目および演習科目に出席し、その教育内容を把握しており、教員だけでなく特任教育技術員も学生からの質問に対応できる様体制を整えている。応用植物科学科では、オフィスアワーを用いた個別指導のほか、成績不振者については教員会議で情報を共有するとともに、学生問題担当教員が優先的にケアしている。また、各学年の実験実習科目の指導は学年担当の特任教育技術員（4名）が実験技術指導を担当するほか、全学年を通じて教育技術嘱託（1名）が植物栽培管理指導を行う体制をとっている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部履修の手引き ・生命機能学科 各種委員リスト ・生命機能学科教室会議議事録 	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>生命機能学科では、1、2年次の基礎実験・演習・科学英語科目において、統一テストを行い、各自の達成度を学生に認知させ、予習・復習の指標を提示している。環境応用化学科では、各年次の学習時間（予習・復習）が偏らないように配慮している。特に専門科目において毎回宿題を課す、講義開始前に前回の講義の内容の小テストを随時行うなど予習、復習を行わせる工夫をしている。また、各科目で授業支援システムを活用し、授業に関連した資料を授業の前後で学生に配布するなど授業の予習・復習が行える様、十分に配慮している。応用植物科学科では、学生実習以外の時間帯において実験室や調査作業室などを開放するとともに、教員や学科が保有する専門図書を開覧可能として、予習・復習が可能な学習環境を整えている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命機能学科 生命機能学実験の手引き ・生命機能学科基礎実験 I/II・基礎演習 I/II のアチーブメントテスト（統一テスト） ・生命機能学科基礎英語 I/II のアチーブメントテスト（統一テスト） 	
④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命機能学科では、2年次から各研究室における英語、演習、課題研究を組み込んでいる。英語での科学論文の読解と 	

<p>その発表、研究の実施とその成果の報告など、学生の能動的な学習・研究を前提とした授業を行い、論理的な思考力の向上を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境応用化学科では、講義科目と実験科目の関連性を検証している。予習や復習がいつでも行えるオンデマンド型の講義体制を取り入れることを目指して授業支援システムを活用している。 ・応用植物科学科では、1年生の学生実習において全員参加型の課題発表会、2年生では必修科目として全学生にインターンシップを実施、3年生では自ら研究計画を立て自主的に病害虫の診断を行う問題解決型の実習を実施するなど、学生参加型・対話型の教育を数多く取り入れている。 ・応用植物科学科では、昨年度開設した植物医科学センターの実践的な活動（植物病害虫診断事業）を4年次の卒業論文研究に生かすことで、問題解決能力に加えて、主体的に考える能力や社会的能力を育成する試みを行っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部履修の手引き ・生命機能学科 生命機能学実験の手引き ・生命機能学科基礎実験 I/II・基礎演習 I/II シラバスと予定表 ・環境応用科学科授業支援システム利用の試み 	
<p>3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。</p>	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命機能学科では、2014年度より専任教員担当科目のシラバス原稿をウェブ上で閲覧する体制を構築し、相互チェックを実施している。2015年度には、専任教員および兼任教員が担当する科目の内容の適切性を検討するために懇談会を実施した。 ・環境応用化学科では、2014年度より教室会議で主要科目についてシラバスの記載内容をチェックし、常に検証する体制を取っている。また、兼任講師が担当する科目については、採用時にシラバスの提出を求め、教室会議にて記載内容を検証している。 ・応用植物科学科では、2014年度より教室会議で全科目についてシラバスの記載内容をチェックする体制を取っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科教室会議（教員会議）開催記録・議事録 	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施される授業改善アンケート（FD推進センター）により、チェックされて、その内容に沿ってシラバスにその内容が反映されているかどうかの項目が設定されている。さらに、学科ごとに教室会議等で検証の機会を設けている。 ・環境応用化学科では、専任教員の担当する授業科目に関して、学期毎にシラバス通り授業が行われたかの指標としてシラバス合致度をチェックし、シラバス合致率80%未満の科目については担当教員にその理由の説明を求めている。 ・応用植物科学科では、授業の初回に学生にシラバスを提示して授業を進めるとともに、授業改善アンケート中の、シラバスの内容が反映されているかどうかの項目に対する回答を検証することで改善を図っている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科教室会議（教員会議）開催記録・議事録 	
<p>3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</p>	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の方法および基準は、期末試験や小テストなどの各要素の配分も含めてシラバスに明記され、学生へ周知されている。これらをもとに、授業の内容に応じて適切な単位認定が行われている。 ・成績評価結果については、学生からの異議申し立てが可能であり、そのシステムも確立されている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部履修の手引き ・授業科目シラバス 	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input checked="" type="checkbox"/>
<p>(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>現在は行われていない。近隣他大学との単位互換制度を望む意見もあり、実施に向けて、引き続き具体的な議論が必要である。</p>	

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	A B C
(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。 現在のところは、概ね各教員に任せられているが、成績評価方針を学生の個人情報の問題をふくめて検討する必要がある。生命機能学科では、全教員が担当する研究・実験・演習・科学英語科目については、予め学生に公表された基準に沿って学習態度や達成度等を点数化し、教室会議できめ細かく検討した上で成績評価を行っている。環境応用化学科では実験科目の採点に関して、厳格な採点基準を設け、採点を行い、最終的には教室会議で詳細に検討し成績評価をしている。応用植物科学科では、特に実験・実習科目の成績評価について教室会議の中で話し合われて全教員が確認している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・授業科目シラバス ・各学科教室会議（教員会議）開催記録・議事録	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①教育成果の検証を学部（学科）ごとに定期的に行っていますか。	A B C
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・生命機能学科では、入学時のプレースメントテスト、TOEIC 成績、1、2 年次の基礎実験・演習・科学英語科目で実施する統一小テストおよび期末テストの結果を分析し、教育効果について議論・検証している。また、3 年次の実験・演習・科学英語科目についてアンケートを行い、教育内容・方針の改善に資する情報の収集を行っている。 ・環境応用化学科では、ほぼ毎週開かれる教室会議で教育内容、実施の問題点や教育成果について継続的に検証している。さらに、兼任講師懇談会を年 1 回開催し、兼任講師の担当講義科目についても教育成果について検証し、教育内容・方針の改善に資する情報の収集を行っている。 ・応用植物科学科では授業改善アンケート以外に学科独自のアンケート調査を実施し、教室会議で結果を分析している。また、毎月 2 回程度開催される教室会議の中で、試験の成績や資格取得者数など教育成果に関する情報を共有化し検証しているほか、学業不振学生について原因の分析、および対策を定期的に議論している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科教室会議（教員会議）開催記録・議事録 ・生命機能学科アンケート調査 ・応用植物科学科アンケート調査	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A B C
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 ・生命機能学科では、全学の授業改善アンケートの実施により、各教員への授業の検証および改善を自主的に実施するように確認している。また、学科独自の授業アンケートも実施し、集計結果を授業改善に利用している。 ・環境応用化学科では、毎年 4 月に独自に 1 年生に対し、新入生アンケートを実施している。さらに、春秋学期の全学授業改善アンケートの集計結果を解析し、学生の気質や、授業に対する興味や、理解度を知るための一つの手がかりとして活用している。 ・応用植物科学科では、教員が学期の終わりや次の学期の初めの間に授業改善の目安として用いているとともに、学生の意見を取り入れて授業の改善に役立てている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科教室会議（教員会議）開催記録・議事録 ・生命機能学科アンケート調査 ・環境応用化学科アンケート調査	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> FD アンケートの自由記述欄の詳細情報開示請求により記述内容に対するより細かい対応を行った（執行部）。 	3.4②
<ul style="list-style-type: none"> 各講義でのレポート点や出席点、テストの点数と成績評価の基準を明確にし、厳格で公平な成績 	3.3③

<p>評価の確立をめざしている（生命機能学科）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生に対する就活アンケート調査結果を2、3年生向け就職ガイダンスで活用した（応用植物科学科）。 ・各学年の実験実習用テキストとして、これまでに蓄積した実験技術指導のノウハウを集大成し、学科内全教職員が分担執筆した「植物医科学実験マニュアル」を出版し、一般用としても販売した（応用植物科学科）。 	<p>3.4②</p> <p>3.1④</p>
--	-------------------------

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・3学科体制となり、教員、学生の教育・研究スペースや応用植物科学科の圏場の確保が課題である。 ・取り組んでいる厳格で公平な成績評価を学科全体に導入する（生命機能学科）。 ・アンケート調査を継続して実施するとともに、アンケート内容の改善や学生からのヒアリングの導入を検討する（応用植物科学科）

【この基準の大学評価】

<p>生命科学部の学生への履修指導や学習指導はきめ細かく丁寧に行われている。とりわけ、生命機能学科で行われている1、2年次の学生に対する学習達成度を評価するための「統一テスト」は優れた取り組みとして高く評価できる。他大学との単位互換制度はないが、大学の規則に基づいての単位認定は行われている。</p> <p>シラバスの内容やその実施状況のチェックは、教員相互での検証が学科毎に適切に行われている。</p> <p>成績評価は教員に任されており、厳格で公正な評価を行うための組織的な方策を検討する必要がある。教育効果の検証は各学科毎に全学アンケートや独自のアンケート結果を用いて、組織的かつ定期的に行われ、改善が図られている。</p>

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>【学位授与方針】</p> <p>理念として掲げた「柔軟で総合的視点を備えた実践的研究・技術者であり、かつ、先端的生命科学の知見にも習熟し、〈持続可能な地球社会の構築〉に貢献できるような人材」を社会へ送り出したい。このため、学位授与に当たっては、卒業要件に、「英語科目、教養科目、理系教養科目単位の修得」を基礎として、「必修として課される実践的専門実験・実習科目の修得」を学部全体の方針とする。</p> <p>生命科学部生命機能学科</p> <p>ヒトも含む、生物ゲノムの全構造の解明は新しいエポックであるが、これら生命科学の基礎知見をもととした、医学、薬学、農学、理工学など諸分野とも連携しうる現代生命科学を推進させようような人材養成を目指すために、次のような要件を満たすものに、学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゲノム」、「タンパク質」、「細胞」を中心とする生命科学の総合的理解が達成されている。 ・語学を含む教養科目と学科横断的専門科目の修得をしている。 ・2年次からの研究室配属による課題研究・演習を学士号授与の条件とし、広い視野と実践的能力が備わっている。 <p>生命科学部環境応用化学科</p> <p>化学を基礎として、「資源」、「生命」、「環境」で提示されている課題にサステナブルな解を与えるべく、物質開発、企業化の現場で生かせる研究・技術者の養成を目指し、より具体的には次の要件を満たす者に学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い教養と国際性が備わるために教養科目を習得している。 ・専門知識の習得とそれを生かした問題解決能力が備わっている。 ・実験操作を自ら行い、その結果を正当に評価し、論理性ある結論が導きだせる。 <p>生命科学部植物科学科</p> <p>植物と植物保護について専門的知識を持ち、食糧問題や環境問題の解決に向けて実践的に取り組める人材を養成し、次の点を学位授与の要件とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な植物病について、的確に診断・予防・治療できるための専門的知識とその遂行能力が備わっている。 ・食の安全や環境についての知識を持ち、植物保護の技術を理解しリスク評価を行える総合的能力を有する。

<p>・専門教育で得た知識を活用し、さまざまな分野で新しい科学や技術が現代社会に与える影響を自らの力で正しく評価し、その内容の正確な伝達ができる説明能力が備わっている。</p>	
<p>4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。</p>	
<p>①学生の学習成果を測定していますか。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C</p>
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。 生命機能学科は、初年次から実践的な教育を行うことを特徴とするが、1～2年次においては実験・演習・科学英語に関する統一テストによりその達成度を定量化している。2～4年次に取り込む課題研究では、その集大成となる「卒業論文」について、全専任教員が全てを審査し、口頭発表を聴く。その上で、全専任教員による判定会議において評価を決定している。環境応用化学科では、授業科目の到達目標に関しては、学期末定期試験において評価を行う。学期末定期試験が実施されない科目に関しては、授業時間内に課題を課し、回答結果を元に毎回評価を行うなどの方法により、学生の学習成果の測定を行っている。さらに、集中講義科目においては、授業時間内や授業終了後の一定期間にレポートを課すなどして適宜評価を行うことによって達成度評価を適切に行っている。応用植物科学科では、GPA や TOEIC の年次比較のほか、実験・実習科目におけるレポート内容の確認・比較を行っている。また毎年、技術士一次試験合格者、樹木医補・自然再生士補の資格取得状況、学生による学会発表などを確認している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科教室会議(教員会議)開催記録・議事録 ・各学科卒業論文発表要旨集 ・生命機能学科統一テスト</p>	
<p>②成績分布、進級などの状況を学部(学科)単位で把握していますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・生命機能学科では、本学科の特徴である実験・演習・科学英語の科目について、全専任教員で教室会議において成績を判定している。また、学期末と年度末には、特に修得単位の少ない学生を抽出して、必要に応じて個別に指導している。 ・環境応用化学科では、実験科目について、成績分布について検証し、全教員による成績判定を行っている。また、教室会議で行われている授業報告により、各科目の成績分布の様子は全教員で情報共有を行っている。さらに年度末の教室会議では、進級や卒業については、全教員により提供された情報を基に検討しており、十分に把握している。 ・応用植物科学科では、実践的教育の要である実験科目について、全教員による成績判定を行っているほか、樹木医補、自然再生士補の認定養成機関であることから、資格取得に必要な科目の履修状況を常時把握・指導している。進級や卒業については、提供される情報を基に、教室会議で検討し個別指導している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科教室会議(教員会議)開催記録・議事録</p>	
<p>③学習成果を可視化していますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B C</p>
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入(取組例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等)。 ・生命機能学科では、1～2年次に実験・演習・科学英語に関する統一テストを行い、定量性をもつ達成度として可視化している。また、学生による学会発表を推奨し、学会発表数を教育成果の一つとしているので、今年度より制定された理系学部学生国内学会発表補助を積極的に利用している。 ・環境応用化学科では、学生の専門科目の理解度、キャリア教育による学生意識変化等についてアンケートを継続して行い、学習成果の可視化を行っている。 ・応用植物科学科では、年度ごとに技術士一次試験合格者数、樹木医補・自然再生士補登録者数を把握して、年次変動を確認している。また毎年度末には、教室会議において、学生の単位取得状況に関するデータを基に、学生指導に関する検討を行い、その方針に則った指導に全教員が取り組んでいる。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科教室会議(教員会議)開催記録・議事録 ・応用植物科学科 技術士第一次試験合格者数、樹木医補、自然再生士補登録者数</p>	
<p>4.2 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。</p>	
<p>①学生の就職・進学状況を学部(学科)単位で把握していますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・生命機能学科では、就職担当教員が学生の卒業後の進路について適宜調査し、教室会議で報告しており、進学状況および就職状況は全専任教員に周知されている。</p>	

- ・環境応用化学科では、学生の卒業後の進路についてゼミ単位で、就職担当教員が適宜調査し、教室会議で報告し、就職状況および進学状況は全専任教員が把握している。
- ・応用植物科学科では、3年生は夏休み前に研究室に配属され、担当教員はゼミ学生の就職内定や進学情報をリアルタイムで把握している。この情報は進路担当教員に報告し、集約された進路情報は卒業までの間に毎月学科全教員に伝達するシステムをとっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各学科教室会議（教員会議）議事録
- ・各学科進路調査

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2015 年度からの試みとして、すべての卒論発表に対して内容やプレゼンテーションを教員全員が採点し、学習成果を測定・可視化するとともに、評価の高かった学生 9 名を優秀学生表彰者として表彰した（応用植物科学科）。	4.1③
・2013 年度に引き続き 2015 年度にも国家公務員総合職（指定試験合格者奨励金対象）に 1 名合格した（応用植物科学科）。	4.2②

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・各学科で成績分布や進級などの状況を教員全体で共有する体制を継続することで、成績不振学生を早期に把握するように引き続き努める。
- ・2013 年度からの新カリキュラムを履修した学生の卒業論文は、「生命機能学研究論文」履修者のみ口頭発表、それ以外の学生はポスター発表という形式に変更することにした。2016 年度末に初めての発表が予定されており、今後、この発表形式の変更に対する教育効果について検討する（生命機能学科）。

【この基準の大学評価】

生命科学部生命機能学科で行われている 1、2 年次の学生に対する統一テストは、学習達成度を評価するための測定方法や可視化方法の例として優れた取り組みとして評価できる。環境応用化学科では、専門科目の理解度やキャリア教育に対する学生の意識に関する独自のアンケートを実施し、成果の達成度を可視化している。応用植物科学科では、資格試験合格者の数や単位取得状況を学習成果の可視化の指標としている。成績や卒業・進級については、各学科の教室会議で全教員が共有している。また学生の就職や進学状況についても各学科で全教員がデータを共有し、適切に対応している。GPA については、成績優秀者の表彰や就職の際の学校推薦等に活用されている。

生命機能学科の「生命機能学研究論文」では、2016 年度から研究室配属の年次に応じた発表形式を採用するなど、学修程度に応じたきめ細かな対応がとられているが、教育効果の検証を期待したい。

5 学生の受け入れ

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】

生命科学は、学際的、かつグローバルな展開を遂げつつあり、とどまるところを知らない。このため言語能力のほか、社会や文化についても素養を持つ必要がある。また、生命科学の専門的知識を幅広く習得し、理解することは「持続可能な地球社会の構築」に不可欠である。このために、広範な背景の学生を受け入れることは必要であるので、門戸を広く開くことは重要と考える。また、学問を貪欲に吸収し、科学技術の進歩を社会に生かそうとする学生を積極的に受け入れることも方針とする。具体的には、下記手段での入学を行うが、同時に入学経路別に学習度の追跡調査も行い、それらへの配慮も行う。

- ・一般入学試験、指定校推薦入学、付属校推薦入学、統一日程入学試験
- ・大学入試センター試験利用入試

・帰国生入試、外国人留学生入試、スポーツ推薦者

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。 はい いいえ

(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。
 入学者数が定員を超過した場合には、クラス分けを行って講義受講者数の適正化を行うとともに、学科ごとに超過分に
 応じて予算措置を講ずるなどして実験実習に支障が出ないようにしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
 ・各学科教室会議（教員会議）議事録

定員充足率（2011～2015 年度） （各年度 5 月 1 日現在）

種別\年度	2011	2012	2013	2014	2015	5年平均
入学定員	200名	200名	212名	230名	230名	
入学者数	245名	200名	198名	263名	224名	
入学定員充足率	1.23	1.00	0.93	1.14	0.97	1.06
収容定員	800名	800名	812名	842名	872名	
在籍学生数	934名	947名	899名	928名	897名	
収容定員充足率	1.17	1.18	1.11	1.10	1.03	1.12

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に
 検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。 A B C

【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。
 ・各学科で入試経路（一般、センター、推薦）ごとに学生のその後の成績等を追跡し、入学選抜の適切性を検証すると
 もに、指定校設定を見直すなどの改善を行っている。
 ・応用植物科学科では、指定校推薦で入学した学生について GPA や TOEIC-IP、プレースメントテスト等の成績を追跡し、
 指定校設定を見直している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
 ・各学科教室会議（教員会議）議事録
 ・指定校推薦見直し委員会開催記録・議事録

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書き
 でそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・高大連携委員会を中心に、指定校見直し作業の他、付属校との連携等広く高大連携と優秀な学生 の確保の方針を探る。	5.2①

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」
 と記入。

・3 学科体制になり入学定員が増加し、さらに定員を大きく上回る学生が入学することがある。2016 年度は応用植物科学 科で学生実験等対処が必要となった。

【この基準の大学評価】

生命科学部としての入学定員に対する入学者数は 5 年間の平均で 1.06、収容定員に対する在籍学生数は 5 年間平均で 1.12 と、数値的にはほぼ適切に対応されている。クラス分けを行って適正化が図られている点については評価できるが、 実験・研究設備が利用できる時間には一定の制約があり、実験・実習を重視する学部理念・目的を損なうことのないよ うに留意することが望まれる。学生の受け入れについては、入試経路ごとの学生の成績を追跡し、入学選抜の適切性を検 証したり、指定校推薦の見直しを行うなど、適切に対応している。

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部では、卒業論文の提出および発表が学位取得に必須であり、全教員の判定のもとに適切に行われている。 退学、休学については教室会議で報告され、留年する学生については、年度末の教室会議において確認され、次年度の留級生ガイダンス時に適切な指導を行っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科教室会議（教員会議）議事録 	
②成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>【成績不振学生への対応体制および対応内容】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部では、2014年度より「累積GPAが1.0以下または学習態度や達成度に重大な問題があると認められる者」を成績不振学生と定義し、とくに注意して対応している。「学習態度や達成度」に関しては、修得単位数、授業への出席率、レポート等課題提出状況、GPAをもとにして総合的に判断する。とくに、必修の実験実習科目の出席状況やレポート等課題提出の状況は、学生の学習意欲と理解度をリアルタイムに反映する重要な指標と考えているため、学期途中にも適宜モニターして対応する。この対応のため、各学科に学生担当教員をおいている。 生命機能学科では、学生担当教員は、学科主任等と連携して、上述の基準から問題となる学生の調査・対応を主導する。当該学生に対しては、メールもしくは文書による本人への注意喚起、個人面談、郵送による保証人への通知を含めた個別指導を行う。学生担当教員と基礎実験演習担当教員を中心に、成績が不振な学生の状況を教室会議で共有するとともに、必要に応じて個別に面接を行い、きめ細かい指導をしている。また、成績不振など問題を抱える学生の状況は出来る限り学務課とも共有している。 環境応用化学科では、成績不振な学生の情報を教員間で共有し、必要に応じて、各教員が呼び出しを行い、注意を喚起するとともに、指導を行うなど適切に指導を行っている。 応用植物科学科では、教室会議で「GPA1.0以下の学生、実験実習（全15回）で4回以上欠席した学生、実験実習でのレポート未提出者、1～3年生の進級要件を満たしそでない単位少修得者、4年生の卒業要件不足見込み者」などを成績不振学生としてリストアップし、全教員で情報を共有した上で、優先的にケアしている。また、「学生問題担当教員」を設置し、各学年担当教員2名、さらに必要に応じて学務課・学生生活とも連絡をとりつつ、成績不振者を指導している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科教室会議（教員会議）議事録 	
③学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小金井企画・調整会議に「小金井キャンパスにおける留学生の対応について」との提言を行い、日本語教育、医療連携などの対応が検討されている。 生命機能学科では学科主任が4月に留学生を集めて、履修の説明や大学生活について説明を行い、学生間の情報交換を促している。 応用植物科学科では、2016年度に外国人留学生（英国にて修士号取得）が博士課程に入学する予定があり、学科として修学支援に力を入れていく予定である。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小金井企画・調整会議議事録 学科教室会議（教員会議）議事録 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・年度末に研究室移籍希望調査を行い、特段理由のある学生について面談し研究室移籍を行った(生	6.1②

命機能学科)。 ・出席・授業態度に問題のあるとみられる学生(各学年7～8名)を2016年度早々に学年担当教官が個別に呼び出し事情を聞くとともにアドバイスした(応用植物科学科)。	6.1②
---	------

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学生指導での質の保証、授業内不正行為への対応などの課題に取り組む。 ・各学科実験実習科目への取り組みに不安がある学生について、学科で早期に発見し、その対策を引き続き行う。

【この基準の大学評価】

<p>生命科学部の卒業・卒業保留については、卒業論文の提出と発表で厳格に評価・把握されている。また留年や休学・退学者についても各学科の教室会議で報告され、適切に対応されている。</p> <p>成績不振者に対してはGPAの基準を設けて、個別に指導・対応していることは適切である。また必ずしもGPAだけでは測れない、授業への取り組みに不安のある学生に対しても面談を含めた対応が実施されている。</p> <p>外国人留学生への修学支援については、学部ではなく小金井キャンパス全体で取り組むべき課題として対応が検討されている。学部としても、外国人留学生に対しては入学時に個別ガイダンスを実施し、2年次以上の留学生が新入生の留学生を支援する取り組みを実施している。</p>

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム(質保証委員会)を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。	はい いいえ
----------------------	--------

<p>【2015年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部質保証委員会は、学部長、教授会主任、副主任、および各学科より選出された委員の計6名で構成されている。2015年度の構成は、委員長：西尾 健、委員：常重アントニオ、村野健太郎、川岸郁朗、濱本 宏、森 隆昌、である。 ・開催状況と議題等は下記のとおりである。 <p>第一回：4月1日(水) 議題： 委員長の選・2014年度活動報告書について・2015年度自己点検・評価活動について</p> <p>第二回：4月16日(木) 議題： 現状分析シートについて・年度目標・達成資料について</p> <p>第三回：4月23日(木) 議題： 進捗状況について(執行部とりまとめ)・指摘事項などの修正について</p> <p>第四回：4月29日(水) 議題： 現状分析シート、年度目標・達成指標の最終案について</p> <p>第五回：12月25日(水) 議題： 年度目標の進捗状況報告</p> <p>第六回：2016年3月9日(水) 議題： 年度末報告書・活動報告書案について</p>

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・自己点検作業における執行部会議と質保証委員の役割を分け、PDCAを明確にした。	7.1①

【この基準の大学評価】

生命科学部では学部長、教授会主任・副主任、各学科から選出された委員（3名）の計6名で構成される質保証委員会が2015年度は6回実施されている。

質保証委員会のあり方については、執行部と施行部以外の委員との役割を変更するなど、議論が続けられており、生命科学部としての質保証委員会のあり方について、厳格なPDCAサイクルが担保される仕組みとなるよう、今後の検討に期待したい。

【大学評価総評】

生命科学部は生命機能学科と環境応用化学科に加え、最近設置された応用植物科学科の3学科で構成されている。それぞれの優れた制度等を学科間で取り入れ、連携を深めながら学部としての教育体制・手法の充実と向上を図り、自己点検・評価の検証プロセスを有効に機能させている点で評価できる。限られた制約条件の中で大学院の教育研究も含めた教員組織の充実と強化を図っていることは評価できる。

教育内容では、学部のSAプログラムやERP科目、TOEIC-IPテストの活用を進め、一部の専門科目へも英語教育を積極的に取り入れたり、初年次教育やキャリア教育を充実させるなど優れた取り組みと評価できる。また生命機能学科で行われている1、2年次の学生に対する統一テストは、学習達成度を評価するための測定方法や可視化方法の事例として優れた取り組みと高く評価できる。

生命・環境・物質・植物という異なった分野の教育研究を担う生命科学部は、3学科によって担われている。それぞれの学科はほぼ独立して担っているが、今後連携を一層に深め、学部としての評価を高めるための努力を継続して欲しい。

質保証委員会は、学部長、教授会主任・副主任、各学科から選出された委員の6名で構成されているが、厳格なPDCAサイクルが担保される仕組みとなるよう、今後の検討に期待したい。